

会山行山スキー報告

山域：吾妻連峰

人：L迫、八木沢、佐々木、勅使河原、阿部、菊重、小林、
小島、吉岡、柴田、大木、福原、久池井（七）、片柳（日光） 計14人

日時：2006年4月9日（日帰り）

行程：グランデコスキー場 西大巔（にしだいてん） 西吾妻 二十日平 グランデコスキー場

前週に一部のメンバー5人で、下見に来たときは、吹雪いてしまい、西大巔のチョイ手前で撤退してしまったが、今日はどうであろうか、天気予報では昼から回復すると言っていたが、朝の宇都宮では風が強いが、空には星が見えていた。

また、この一週間で、天気がかなり変動していたため、雪面状況もチョット気にかかる。

4/9（日）

5:00集合

今回は、人が多く14人。ベテランから、山スキーデビューまでいるので、滑り始めるとバラけてしまいそうで、どうなることやら。

東北道を北上し、磐越道で猪苗代磐梯高原ICへ、高速を走行中も左右にハンドルを取られるほど風が強い。上空には低い雲が垂れ込め時折雨が降ってくる。

猪苗代磐梯高原ICにつく頃には、手が届くくらいのところに雲がある、雪も降ってきた。
というか、標高が上がったのか。。。

小野川湖周囲の道は、降雪で滑る。しかし、4月だというのに、よく降る。

6:30頃グランデコ駐車場（春スキーの時期は駐車場無料。先週は1000円取られた）

天気は雪、風強し、西吾妻もよく見えない状況である。

各自、身支度、準備して出発。ゴンドラは1000円（500円チケット2枚必要）

シニア（50才）以上は400円×2枚。。。購入してゴンドラへ。

ゴンドラ乗り場下のパトロールに計画書を提出して情報収集、ここでも、午後からは回復すると言っていた。が。。。

先ずはゴンドラで一気に高度をかせぐ。

下りのルートを眺めるが、かなり密集した林間ルートに見えるため、新人さんは大丈夫だろうか自分自身も先週は深めのモナカ状態で同じような雪質だったらかなりこすると思われるのでチョイト不安がよぎる。下りの時間は大丈夫だろうか。木に激突したりしないだろうか。などなど。

ゴンドラ駅からは、ゲレンデ脇を第3クワッドリフト降り場までシール登高する。

先週は少し滑り降りて第3クワッドを使おうと楽なことを考えたが、それが仇となったか、第3クワッドは9:00からの運転で、1時間待ちとなってしまう。そんなに待ちきれんということでわざわざリフト1本分を登り返した。

今回は新人の最初の練習と、各自のスキーなどの調整も兼ねて第3クワッドリフト降り場までシール登高することにした。

久池井（七）、佐々木、大木には新人のシール登高の指導をお願いしたが、なんだかんだと言いながら皆ついて登って来る。自分が山スキーデビューの時はかなり苦労したのに。。。

道具がいいのか、教え方がいいのか。

この頃には既にかなりの雪が降っており、ゲレンデでも

3~4cmの積雪がある。山はそれ以上の積雪があり、

また、先週は冷えて硬い雪面に新雪なので表層雪崩れが

起きそうな状況である。要注意！今回のルートには、表層

雪崩れが起きそうな斜面はないが、チョットルートを外れると急斜面もある、視界が悪く迷った時には注意が必要だ。

（後日ニュースを見ると、この土日の北アルプスでは雪崩れの被害が多々発生していた）



9：00 ゲレンデ最上部出発

ここからはゲレンデを離れ山中となる。とりあえず一息ついて、14人の隊列を作り初めは北北東を目指し出発する。

歩きながら、ビーコンのチェックを済ませ、雪の舞う新雪の樹林帯を進む。

30cm程度の新雪でその下には先週までの締まった層があるため歩きやすく、ペースよく進むことができる。

チョットした乗越しや、中斜面では、ヨッシーや、コジーの新人がてこずっており、渋滞を引き起こしているが、それはそれ、中堅、ベテランの皆さんのが色々指導していただけているようだ、彼らも苦労はしているが、楽しく登っている。ヨシヨシ。

新雪のシール登高を新人にも体験してもらうため、順番に先頭を交替してすすんでもらうが、ルート選択がイマイチで行き詰まったり、急斜面に突っ込んだり、

バックしてきたりと、なかなか楽しませてくれる。当の本人がマジだから、なお更笑えてしまう。樹林帯の中では、視界はないが、風も無く、視程はあり、上を目指して尾根を登るだけなので、特に迷うこともない。

途中、2人と、3人のパーティーに抜かれる。が、新人はあえてトレースを避け、新雪のルートを選んで登っていた、頼もしい限りである。（マゾなのかもしれない。。。。）

10：00 一本 とる。

中堅は毎週のように山に出かけているので問題無いが、久しぶりの山や、スキーという方もいるので、早めに取る。

グレープジュース（アルコール入り）が美味しい。腹ごしらえを少しして、出発。

この先後少しで、西大巔である。

この辺までくると、森林限界を超えてきていて木々も少なく樹氷がきれいであり、4月であることを忘れてしまう景色となる。

先週よりも若干視程もあり、最後の急登を左から巻いて登った。（ガイドの本にもそう書いてあった）一時、ホワイトアウトのように真っ白なミルクの中を泳ぐようなところもあったがトレースもあり山頂までは迷うこととはなかった。

先週は濃霧のためこの急登を直登したところで折り返したが、今日の雪質では雪崩れる心配があると感じた。

10：30 西大巔到着

位置的に考えると、先週撤退で折り返したところは、ほんの直ぐそこであることがわかり、チョット残念であると同時に、視界がないときの山の怖さを感じた。

記念写真を撮って。。。でも強風、視界不良で展望なし。先週も展望がなかった。

果たして、誰がいけないのだろうか？

視界が悪いため、磁石と地図をにらめっこして方向を定め出発する。

チョット片斜面をトラバースするようになってしまい、早く右により過ぎたようで、左に戻りつつ進むが、小林さんの提案もあり、一度西大巔に戻ることとする。

『ベテランから新人まで14人の大量遭難！』という新聞の見出しが一瞬よぎり、「ここで撤退するか」とも考えたが、天候の回復を期待し、ベテランのアドバイスも得られたので、再度地図・方向の確認、を行い慎重に進むことにした。

先行の2パーティーのトレースを確認しつつ進むが、姿は全く見えない状態であった。

西吾妻との鞍部への下りでは、樹氷の中を新人のみならずベテランも転がりながら降りてくる。傾斜はゆるいが、樹氷の間で吹き溜まり、落ち込みなどが連なり、なかなか手ごわいところで



ある。しかも14人もいればなかなか進まず渋滞を起こしている。。。

笑えるシーンには事欠かない。

まあ、時間にはまだ余裕があるので大丈夫。皆それを楽しんでいる。

あの天候のなか、笑って楽しめる余裕があるのは、皆すごい！

鞍部を越え、次第に斜面が登りになってくる。西吾妻への尾根が若干見えるので、地図と照らし合わせてルートを選び、14人が再び隊列を作り、登りにかかる。が、程なく西吾妻避難小屋が見えた。ルート選定と進行方向がドンピシャだった。（ショットうれしい）

12:25 西吾妻避難小屋着

2階から中に入る。

新人の山スキーデビューのヨッシャや、コジーは2階から出入りするのも初めてらしくなかなか、騒いでいたが、ヨッシャがショットお疲れ気味？

ショット長めの休憩。

ラーメンを作ったり、グレープジュースや、ビールまで出てきた。。。

ヤッパリ山屋はオカシイ。。。重くて、辛いことが分かっているのに、アルコールだけは忘れない。。。この一杯、一口がたまらないんだよね。

しばらくすると、ゴソゴソと人が入ってくる気配、男性が1人入ってきた、天元台から来たと言っていたが、もう1人と、はぐれたらしい。この気象で大丈夫だろうか、しかも地図を相棒に渡してしまい、自分は持っていないとのこと。テッサーが持っていた地図のコピーをあげると、お礼を言って直ぐに出て行ってしまった。天狗岩に相棒はいると言っていたが、その後会えたのだろうか。

13:10 西吾妻避難小屋 出発

腹ごしらえも済んだところで、再出発する、西吾妻山頂までは、直ぐである。

が、山頂は、だだっ広く何処がピークなのか分からない上に、二十日平へ向かう尾根の幅も広いため、視界が悪いと下る方向を間違える可能性がある。

このときは少し雲が薄くなり明るさが戻ってきて視界も少し良くなつた。ここでシールを外す。皆、シールを外しワックスまで塗っている者のいる。。。気合を感じる。

滑走方向は南南東へスタートする滑り始めはまだ樹氷も小さく視程もあるので、見失うこともないが、しばらくすると木々も増え、高くなるので、見失うことがありそうだ。

ベテランや経験者は楽しんでヒャッホ～と奇声を上げながら滑っているが、山スキーデビューのヨッシャは。。。新雪で板がずれずてこずっている。

木に激突することもしばしば。スピードが遅いので怪我はないようだが。。。見ていると心配だが、本人はケロッとしている。

テッサー、ハンターが最後尾で付いてくれているので、自分は地図と磁石でルート選択をしながら滑る方向を定める。数人のシュプールが残っているので、迷うことは無いと思っていたが、それはそれ自なりにルートを選んで進んでいった。しかも幾らでも新雪斜面があるので、木の間を抜け、枝をくぐり、ギャップを飛び越え（落ちて）思い思いのシュプールを描く。

下りでは、ベテランと初級者で間が開きすぎて収集に手間取ると思っていたが、考えていたスピードより皆早く滑って降りてくる。

面白い。今日の雪質は、週半ばまでの締まった雪の上に新雪が20～30cm積もっているので新雪であるにもかかわらず、コントロールしやすくメチャ楽しい滑走となった。

しかし、新人には辛いらしくヨッシャはかなりバテテいたようだ。そりゃアレだけコケて、ヨタって、木とぶつかっていたら疲れるでしょう。でも、皆に付いて来たんだからすごいです。

八木ちゃんも、ほとんどスキーをしていないのに、なぜか滑れる。福ちゃん、ボン、コジーもそれなりに楽しそうに滑って来る。ナナミンはヘルメット装着、上手くなつたね。

佐々木さんは新人なんだけど上手で手堅く滑ってきてる。

ベテランの方々はやはりベテラン。

何も言つことありません。片柳さんは別格の滑りで林の間をカツ飛んでいる。。。すげ～。



山が久しぶりのハンターはチョットお疲れ気味。でも、最後尾の追い上げありがとうございます。
唯一のテレマーカーのテッサーは格好いい！

やや右にルートを取って下って行くと、標高が下がるにつれてやはりやや雪が重くなる。

1548m手前で斜度がゆるくなり、軽く流しつつ、やや右へ進む。再び楽しい斜度へ突入。

1332mで予定では左方向へ進むのだったが、そのまま南下して行ってしまった。

これが仇となり、目の前に沢が現れ行く手を阻む。

地図で場所を確認、これを右の沢方向へ降りても良いのだが、そうすると、沢スジへ降りてしまふ。この人数で沢スジを滑るのはチョットリスクあるので、北東へ10m位戻って目の前の沢を覗いてみたが、直ぐ渡れそうなので、ルートをそちらにとって目の前の沢を左から巻いて抜けた。

1332mでもっと左へ巻いていけば沢にも出会わず素直に二十日平へ出られたはず、
ルート選定のミスです。ごめんなさい。

その後は、二十日平の西端を滑り降りて、最後の沢渡りである。

自分が先行して様子を見るが、渡れそうにない。片柳さんが少し上流に戻って様子をみると
そちらの方が渡れそうであったので、皆は上流に進む。

自分のこの登り返しが辛かった。。。

沢を渡ると、50m位でゲレンデに出た。この付近も自分が想定していた場所にドンピシャ
だった。。。メッチャうれしい。

15:30 ゲレンデにてた。

その後、緩斜面の最後のゲレンデを滑っておりて、ゴンドラ乗り場まで行って終わりである。

最後にパトロールに無事の下山を報告（連絡）して今回の会山行・西吾妻山スキー
は終了した。

皆さん、つたないリーダに文句も言わず付いてきていただきありがとうございます。
反省点は多々ありますが、今後に生かしていきたいと思います。

お疲れ様でした。